

統計研修講義計画書

研修課程	本科（総合課程）	講義科目	県民経済計算	講義時間	8コマ
講師	大平 純彦 静岡県立大学経営情報学部准教授				

※1コマ70分

講義のねらい

県民経済計算は、地域間格差の問題など地域経済を分析する際に、広く用いられる重要な統計である。講義のねらいの第一は、国民経済計算との関連において県民経済計算とは何であるかを理解していただくこと、第二は、県民経済計算を用いて、地域の経済力や豊かさを評価する基本的な方法を理解していただくことである。あわせて県民経済計算を用いて地域経済の動向を分析する際に用いられる具体的な手法を紹介し、地域経済動向を分析する能力を高めることを期する。

指導項目と内容

指導項目	内 容
1 国民経済計算と県民経済計算の発展	日本の県民経済計算が、国民経済計算の発展の歴史の中で、どのように位置づけられるかについて、国連を中心とする国際的な発展史の観点から説明する。
2 県民経済計算の基本構造とその推計	県民経済計算を構成する基本的な三つの勘定システムについて概観するとともに、最も重要な指標である県内総生産とその三面等価について説明する。あわせて現実の県民経済計算がどのように作成されているかについても見ておこう。
3 県民経済計算における主要集計量とその意味付け	県民経済計算から導かれる県内総生産や県民総所得などの指標を用いることによって、地域の経済力や豊かさをどのように測るかについて説明する。県民経済計算のデータを用いて現実的、具体的な結果を提示する。
4 2008SNA の地域勘定の構造	今日の日本で作成されている県民経済計算は、国連が作成している地域勘定のマニュアルと相違するところがある。両者の相違点を理解することによって、日本の県民経済計算の特徴がわかる。
5 県民経済計算を用いた分析（全国の視点から）	県民経済計算を用いた分析の第一は、地域間格差の計測をはじめとして、全国的な視点に立って地域経済の動向を比較することである。県民経済計算のデータと表計算ソフトを用いて、成長率の格差の比較などの具体的な分析結果を紹介する。
6 県民経済計算を用いた分析（個別の県の視点から）	県民経済計算を用いた分析の第二は、個別の県経済の動向を分析することである。各県の県民経済計算のデータを用いて、各県の経済見通しを作成することができる。表計算ソフトを用いて将来予測を行う具体的な方法を紹介する。

講義形態 指導方法

主に講義形式で行い、表計算ソフトを用いた具体的な分析例を紹介する。

受講に必要な 基礎知識等

最初からわかりやすく説明するので、前提とされる基礎知識は特にない。分析手法をマスターするためには、Excel の使用法の基本を理解していることが期待される。